

[話題提供] クニマス量産に向け一歩前進

[要約] クニマスを未成熟期から水温 8-9℃で飼育することで、成熟魚の出現率を向上させることができる。

[担当] 山梨県水産技術センター・忍野支所・青柳敏裕

[分類] 研究・参考

[課題の要請元] 食糧花き水産課、西湖漁協、富士河口湖町

[背景・ねらい]

水温 4℃前後の深層湖底で産卵するクニマスは、忍野支所の飼育環境(水温 12.5℃)では、成魚までの飼育は可能だがメスがほとんど成熟せず、完全養殖が困難である。令和 3 年度までに、未成熟期からの低水温飼育によりメスの成熟改善の可能性が示されたため、低水温飼育をできるだけ多くの尾数で行い、クニマス完全養殖の確立を目指す。

[成果の内容・特徴]

1. 人工繁殖第二世代 460 尾のうち 200 尾について、1 歳または 2 歳からの冷却飼育により、2022 年 10 月から 2024 年 1 月末までの間に合計 52 尾が成熟し、メス 30 尾から合計約 2 万粒の卵が得られた。
2. 累積成熟率は冷却区 26%、非冷却区 (12.5℃地下水) 5%であり、特にメスの成熟率の向上に冷却飼育は有効と考えられる。
3. 現在の平均発眼率は 11.4%、平均ふ化率は 5.2%と採卵成績は悪く、未だクニマスの量産には至っていない。
4. 西湖での自然産卵期にあたる 11 月から 3 月に得られた卵でも全く発眼しなかったり、ふ化前に死んでしまう例が多く、低調な採卵成績の原因究明が今後の課題である。

[成果の活用上の留意点]

量産技術が未確立で活用の段階ではない。採卵成績が低調な原因解明や成熟時期の同調技術の開発が必要である。

[期待される効果]

クニマスの域外保全と水産利用並びに展示施設等での活用

[具体的データ]

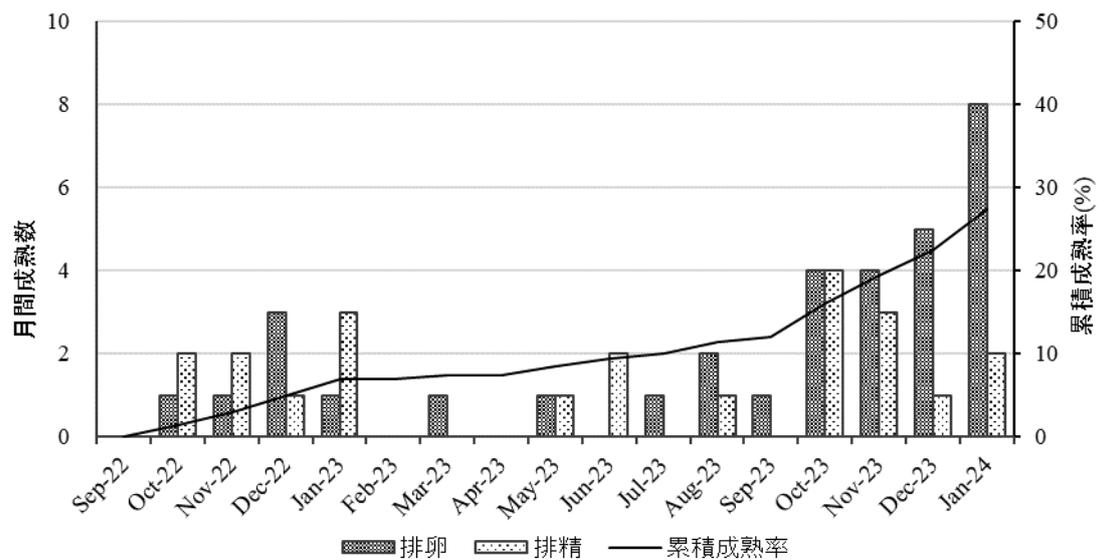


図1 冷却区（8-9℃）における成熟魚の出現状況

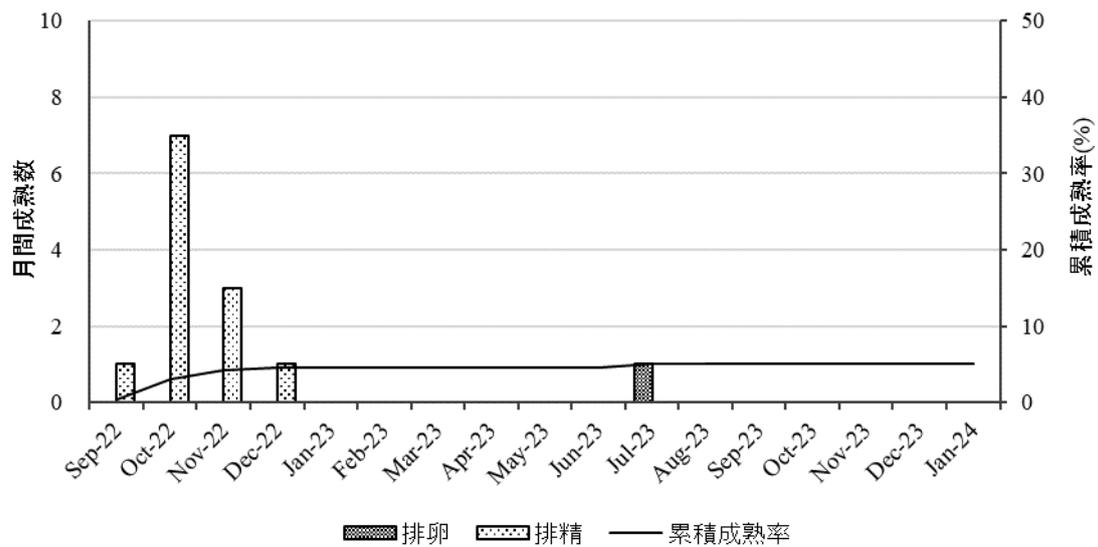


図2 非冷却区（12.5℃地下水）における成熟魚の出現状況

[その他]

研究課題名：クニマスの養殖技術に関する研究

予算区分：県単

研究期間：2022年度～

研究担当者：青柳敏裕